

原子力開発利用基本計画策定に対する

田中 愼次郎 参考の意見（要旨）

三一・四・三

一九六〇―七〇年の十年間が世界全体としてみて、原子力によるエネルギー開発上決定的な期間となるであろう。すなわち

1. 原子力技術の進歩が一定段階に達し、原子力の経済性がはつきりする時期である。
 2. 原子燃料の輸出国がふえてくる可能性がある。
 3. 国際的な管理機構が確立し、具体的に動くようになるだろう。
- したがってこの期間の見透しをはつきり腹に入れて、資料を集め、基本計画をたてることが肝要である。つまりわが国としては、この期間に予想される諸条件のなかにうまく乗って行くことが大切で、そのためにはどうしたらよいかということが今後五カ年間の課題である。

c111-018-007